

施策マネジメントシート1(平成 31 年度目標達成度評価)

更新日 令和 2 年 6 月 25 日

事業番号 0030000022

総合計画体系	政策No.	01	政策名	子どもがいきいきと輝きみんなで教育・子育てを支えるまちづくり	施策主管課	社会教育課
	施策No.	03	施策名	生涯学習の推進		
関係課		図書課,(財)焼津市振興公社,学校教育課,文化・交流課,社会教育課				

1 基本計画期間(平成 30 年度～ 令和 3 年度)における「施策の方針」 重点施策

・誰でもが学べる学習機会を提供するとともに、地域と密着した実践活動を推進します。併せて高齢者の生きがいづくりや、居場所づくりに寄与します。

・天文科学館や図書館において、誰もが学習できる環境づくりに取り組みます。

・学習拠点として生涯学習施設の整備を推進します。

・青少年の健やかな成長・発達を促すため、学校・家庭・地域の連携を強化し、地域全体の教育力の向上を促進します。

2 施策の目的(①対象③意図)と指標(②対象指標④成果指標)等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		市民							
②対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	数値区分	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)
A	人口	人	見込み値 実績値	137,935.0 137,193.0	137,193.0 136,807.0	136,807.0 0.0	136,807.0	136,807.0	136,807.0
B			見込み値 実績値						
③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		自らが学び、社会に活かすことができる。							
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)
A	各種講座の参加者数(市内9公民館の利用者数)	人	目標値 実績値 達成率	499,500.0 451,266.0 90.3%	502,500.0 428,375.0 85.2%	505,500.0 0.0 0.0%	508,600.0	0.0	0.0
B	天文科学館・図書館の利用者数	人	目標値 実績値 達成率	483,500.0 465,681.0 96.3%	488,300.0 437,696.0 89.6%	493,200.0 0.0 0.0%	498,100.0	0.0	0.0
C			目標値 実績値 達成率						
D			目標値 実績値 達成率						
E			目標値 実績値 達成率						
F			目標値 実績値 達成率						

⑤成果指標の測定方法
(実際に成果指標の実績値をどのように把握するのか)

A:統計による。
B:統計による。

⑥基本計画期間における施策の目標設定とその根拠

A:自ら学習する数値として、もっとも身近な学習機会の拠点である公民館の利用人数が顕著である。過去5年間の平均値を目標とした。平成26年5月に建設した小川公民館の実績を参考に平成30年度から和田公民館利用者を8%(約5000人)増を見込む。平成33年度の目標値は508,600人。

B:学習の機会を提供する図書館及び天文科学館の利用者数の合計値。平成24～28年度の5年間実績でそれぞれ7.7%、1%の増。図書館においては非来館型のサービスを充実させる方針のため、平成33年度までの5年間で5%の増(年1%の増)を見込む。焼津図書館に入館者カウンターをつけ、基準を貸出者数から利用者数に変更する。天文科学館についても5年間で5%の増(年1%の増)を見込む。

⑦施策コスト (トータルコスト=事業費+人件費)		単位	30 年度 (実績)	31 年度 (実績)	2 年度 (計画)	3 年度 (計画)	4 年度 (計画)	5 年度 (計画)
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	52,845	65,462	78,430	44,060	44,060
		一般財源	千円	392,092	374,800	388,557	414,106	411,606
事業費計(A)		千円	444,937	440,262	466,987	458,166	455,666	
人件費	正規	職員従事人数	人区	22.0	20.5	11.3	11.0	11.0
		職員延業務時間数	時間	42,162.0	39,313.0	21,676.0	21,185.0	21,185.0
		職員人件費	千円	174,382	159,650	78,055	72,876	72,876
		人件費計(B)	千円	174,382	159,650	78,055	72,876	72,876
経費	その他	千円	0	0	0	0	0	
	経費計(C)	千円	0	0	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)+(C)	千円	619,319	599,912	545,042	531,042	528,542	
この施策の事務事業数		本数	29	29	29	29	29	

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

ア) 住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)

- 【市民】
- ・自らの教養を高めるための学習活動を行うとともに、その成果を地域活動などに活用します。
- 【地域】
- ・コミュニティ活動を通じて、地域の課題解決に努めます。

イ) 行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・市民や団体などに対し、学習活動を行うことを奨励し、学習機会や情報の提供、環境整備(生涯学習施設の整備など)を行います。
- ・世代間を超えた交流機会を創出します。併せて人材育成を行います。また、地域課題解決に寄与します。
- ・広域での環境整備については、国や県に働きかけます。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化したが、令和2年度を見越して、今後どのように変化するか?

- ・令和元年6月、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律(第9次地方分権一括法)」の施行に伴い、特例で公民館等の社会教育施設の所管を首長部局へ移管することが可能となった。
- ・公民館は単に学習する場所と機会を提供するだけでなく、地域づくりや防災対策などの拠点施設として、多様な役割を期待されるようになってきている。

③ この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・老朽化した公民館の更新を求められている。(市民)
- ・公民館等の施設更新の際には、避難ビルとしての役割を担う施設整備が望まれている。
- ・図書館が遠いので、地域の公民館図書室の蔵書を充実してほしいとの要望がある。(市民)

4 施策の評価

① 施策の目標達成度(平成31年度の目標と実績との比較)

成果指標名	単位	平成31年度成果指標の達成度			結果
		目標値	実績値	達成率	
A 各種講座の参加者数(市内9公民館の利用者数)	人	502,500.0	428,375.0	85.2%	×
B 天文科学館・図書館の利用者数	人	488,300.0	437,696.0	89.6%	×
C					
D					
E					
F					

* 平成31年度施策の成果指標の達成状況及び要因

A:未達成。リニューアル2年目の和田公民館の利用者増などにより上半期は前年を上回る利用者数となっていたが、台風による公民館祭りの中止や新型コロナウイルス対応により、目標が達成できなかった。
 B:未達成。天文科学館ではプラネタリウム特別番組や特別展に多くの観覧者があり、利用者数は前年を上回ったが、図書館での設備工事、台風による臨時休館や向館での新型コロナウイルス対応などにより、目標が達成できなかった。

※○:目標達成 △目標をほぼ達成(達成率95%以上) ×:目標を未達成
 指標名に(ー)があるものは、目標値より実績値が低いものを達成とする

② 施策の振り返り(住民と行政の役割分担を踏まえて、施策の目標達成に向けて、基本計画で掲げた「施策の方針」及び「基本事業の取り組み方針」にどのように取り組んだか。)

- ・公民館では子どもから高齢者までを対象とした多数の講座や各種学級を開催し、誰でも学べる学習機会を提供するとともに、地域コミュニティ事業への協力、支援に取り組み、地域コミュニティの振興が図られた。
- ・天文科学館では、星空案内人資格取得講座を開催し、新たに10人の星空案内人が誕生した。星空案内人は専門知識を活用し、当館事業への協力や地域で独自の観望会を開催するなど、学びの循環が行われている。また、小中学校と連携して学習投影や天文・科学出張講座を行い、子どもたちの天文・科学分野に対する理解が深まった。
- ・図書館では、令和元年6月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」の施行に関連し、国立国会図書館と音訳図書に関する「覚書」を結ぶ等、アシストサービスの充実に取り組み、図書館利用に支障のある方の読書機会の拡大が図られた。
- ・各施設では、経年劣化した施設・設備の改修工事や修繕を行い、適切な施設運営に努めた。
- ・青少年教育相談センターでは、学校や地域と連携、協力して青少年の非行を未然防止するための声掛け運動や街頭補導などを実施し、地域での教育力の向上が図られた。

③ 施策の課題(基本計画で掲げた施策の「現状と課題」、「②施策の振り返り」を踏まえて、令和2年度、3年度に向けた施策の課題はなにか)

- ・生涯学習施設の運営や各種事業においては、新しい生活様式の実践など新型コロナウイルス対策の取り組みを踏まえた事業実施方法の見直しが必要である。
- ・公民館主催事業やコミュニティ事業においては、新しい生活様式を踏まえた中で参加者の輪を広げ、地域の連帯感を高めるとともに、身に付けた知識を地域やまちづくりに繋げるような学びの循環をつくっていく必要がある。
- ・社会の変化に対応した住民の使いやすい施設となるよう、公民館のあり方を検討する必要がある。
- ・天文科学館では、利用者の増だけでなく、市民の満足度を高めるため、大学・研究所等の専門機関と連携し、天文・科学の拠点施設として先端技術の学習機会や情報提供を行う事業展開を検討する必要がある。
- ・図書館サービスの充実やICT化の導入等については、社会状況の変化や市民ニーズを捉えて、将来に向けたビジョンを描き、検討していく必要がある。
- ・引き続き、学校や地域、関係機関と連携・協力し、声掛け運動や街頭補導などの青少年健全育成事業に取り組み、地域の教育力向上を図っていく必要がある。